



学指通信

第二回 若手・リーダー つながり研修会 ダイジェスト

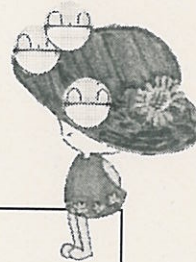
すべて答えの根本は

「集団づくりとは何か？」

Q&A

Q1 ST では何を話せばいいの？

A: 「連絡・指示の文化」ではなく
「拾う・返す (つなぐ) 文化」の学校を作っていく事が大事



そのために、

集団づくりの「軸=目標」を持つこと

「誰でも良くなりたいたいという気持ち」を持っているということ と

「他者から認められる居場所が必要」だということ を「軸」にした話を

学担・教担が連携して行いましょう。日々のSTの話の積み上げが集

団づくりそのものの場になります。

Q2 班ノートがまわらないのは？

A: まわし方の HOW TO ではなく次の3点に問題意識を持つこと

- ① 「班員が一緒にいる」こと * 冊子 LESSON 1 を読んで下さい
- ② 「書く内容がある」こと — 「STでの話」にも関連
拾う・返す (つなぐ) 文化
- ③ そもそも「班はあるのか？」ということ

Q3 小中連携の留意点は？

A: 小中の違いのもとをしっかりと見ること

小学校	}	基本的内容 ゆっくりした時間
中学校		内容は「秩序」の面が大きい
	}	内容が多い 進度が速い 進路を意識
		集団の影響を受ける
		集団づくりは「三位一体」バランスで
		* 崩れる必然性と立ち直る必然性のぶつかりが表に出る

9年間をふまえたゴール(出口)でみていきましょう

大切なことは、「今の学び」を「次の学び」にどうつなげるか です

そのために、算数・数学専門部会を作り、絶対評価の趣旨や学習指導要領をもとに授業のねらいや中身についてつなぐための取り組みをしていきましょう。

* 授業のスタイルの連携の落とし穴にはまらない

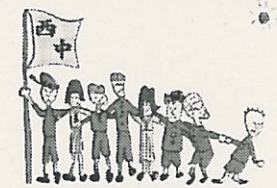
「学びの意欲」(=学びの意欲の前提の基礎学力)と「学びの意欲を勇気づける集団」を育てましょう。 学びの構えだけを「そろえる」ことが前に行くと、子どもが見えない指導となります。

Q4 生徒役員選出の課題をどう考える？

A: リーダーは「育てる」もの

学年で育てた学校・学年レベルのリーダーを、同じ目標のもと、学校レベルで頑

張らせるか、学級レベルで頑張らせるかの問題です



KATA KUMI AERU NAKAMA GA IREBA... SHIMUOI KOTO NO IERU AKIRAMA GA IREBA...

詳しくは後日配布予定の「研修のまとめ」(by松田先生)をお読みください